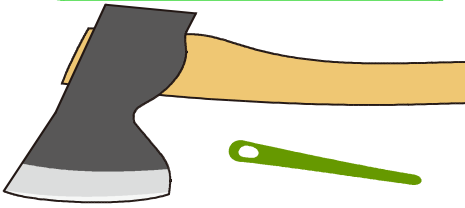




日章学園九州国際高等学校校長便り 如月
 建学の精神：道義に徹し、実利を図り、勤労を愛す
 学園スローガン： **継続は力なり**
 学校教育目標：国際的視野と人間性豊かな心を持ち、自ら学び考え、自己の課題を解決できる生徒を育成する。
 令和5年(2023年)2月1日(水)校長 屋田伸仁



磨斧作針



1月25日は10年に1度の大寒波が日本を襲い、えびのにも大雪を降らせました。一夜明けると、霧島連山も学校も辺り一面、銀世界でした。保護犬ニッチーが雪の中を散歩して、校庭のあちこちにくっきり残したかわいい小さな足跡を見て心が和みました。さて、今年の学園スローガンは「**継続は力なり**」です。意味は忍耐強く努力すれば、必ず成功する。似た意味のことわざや四字熟語、故事成語等を探せば、古今東西あふれていますが、その中でも今日は中国故事の一つ紹介したい。斧を磨いて針を作る「磨斧作針」(まふさくしん)。

唐の詩人李白が少年の頃、学問に飽きて、家に帰ろうとしました。その途中、溪流を渡ったところで、一人の老女が鉄の棒を磨いているのを見かけました。「何をしていますのですか?」と尋ねると、「磨いて針を作るのだ。」と老女が答えました。李白はその根気強さに感心し、自分の学問を途中で投げ出したことを反省しました。そして、道を引き返して師のもとに戻り、学問を完成させました。

李白といえば、杜甫と並ぶ、唐を代表する二大詩人の一人です。李白少年が出会った老女の話は学問は途中で投げ出さず、最後までやり遂げなければならない教訓として人口に膾炙しているようです。もう一つ紹介したい。私が奄美大島で勤務していたときに、学校に懇意の印刷業者がよく紙片のポスターを届けてくれました。毎月配布されるそのポスターには「今月のことば」と題して、いろんな名言やことわざが紹介されていました。その中で印象に残ったものがあります。『**なんども なんども**』という作者不詳の詩です。

『なんども なんども』



なんども なんども 繰り返す。
 なんども なんども 繰り返す。 なんども。なんども。
 なんども なんども 繰り返すと はずみがつく。
 なんども なんども 繰り返すと 勢いがつく。
 はずみがつき 勢いがつくと おもしろ味が出てくる。
 どうしようもない人間が あたりまえの人間になるには
 ただ なんども なんども 繰り返すことだ。
 あたりまえの人間が 専門家といわれる 人間になるには
 同じことを なんども なんども 繰り返すことだ。
 専門家といわれる人間が 秀才や天才と呼ばれる人間になるには
 唯一の道は 激しく 熱心に なんども なんども 繰り返すことだ。
 激しく熱心に なんども なんども 繰り返すうちに
 力が集まり 充実し 熟してくる
 期の熟したものは 何でもおもしろく うまいものだ。



『なんども なんども』という詩を読むと、始める前は小さなことでも、繰り返しやり続けていけば凡人も天才になれるんだと、次第に深く心に染み込んでいくような感じがします。よくできた詩です。

一方、そうは言っても、現実には、続けることができずに途中で挫折することもあります。そういうときでも、なんども、なんども 繰り返し、続けていこうという作者の熱意も伝わってきます。「**継続は力なり**」は、成果や成功よりも、継続できる力こそが、実は大切なんだよと言っているようにも聞こえます。本校の3年生が英検準1級合格、2年生が2級合格という快挙がありました。英語は、繰り返し、繰り返し、積み重ねて習得できる教科です。そういう意味で、「**継続は力なり**」の本領を発揮した彼らに、賞賛のエールを送りたいと思います。

